

<様式1>

令和3年度 さいたま市立大宮北中学校 自己評価書

校長 富田 英雄 印

1 学校で設定した「令和3年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) 一人1台タブレットパソコンの活用を図り、さいたま市「アクティブ・ラーニング」型授業を実践し、生徒の学力向上を図る。
－各教科等の授業の状況、よい授業アンケートの状況
- (2) さいたま STEAMS 教育の研究指定校として、STEAMS 教育で身に付けさせたい資質・能力の向上を目指した授業実践及び宇宙や科学技術に対する興味・関心を高める取組を行い、生徒の主体的に問題を解決する力を育成する。－各教科等の授業の状況、体験活動の状況
- (3) 保護者や関係機関と連携を図り、生徒指導・教育相談体制を強化し、いじめや差別、偏見の防止、不登校への適切な支援を行う。
－いじめ防止等の取組状況、生徒指導・教育相談の状況
- (4) 心身ともに健康な生徒を目指して健康教育を推進するとともに、家庭や地域と連携し、安心・安全な学校づくりを推進する。
－健康教育の実施状況、新型コロナウイルス感染症対策の実施状況、安全点検及び家庭や地域と連携した安全に関する取組状況
- (5) 「学校における働き方改革」の視点にたち、業務改善を図り、教職員の負担軽減を図る。
－業務改善の状況、在校時間の状況

2 評価結果について

目標(1)について

- ・学校評価の生徒アンケートでは、「授業の内容を理解して学習を進めることができますか」について、肯定的な回答が92.2%(昨年度88.7%)と良好な回答が得られた。また、よい授業アンケートの因子「アクティブ・ラーニング」の値が前年度を上回った。一方、「よい授業アンケートの因子「授業マネジメント」、「基礎アップ」、「授業スキル」の値が前年度を下回った。さらなる授業の工夫・改善が必要である。

目標(2)について

- ・すべての教員がさいたま STEAMS 教育で身に付けさせたい資質・能力の向上を目指した授業実践を行うとともに、宇宙や科学技術への興味や関心を高める取組として、モデルロケット教室、天体観望会、科学技術に関する出前授業などを行った。また、これらの研究成果として、研究発表会(文書、動画)を開催することができた。

目標(3)について

- ・いじめ防止に向け、道徳教育、人権教育、校長講話、学年集会、学校だより・学年だより等を通し、継続的に指導した。また、生徒会を中心に、大宮北中憲章の精神、さいたま市子ども会議を踏まえ、「いじめが起こらない雰囲気づくり」をテーマに掲げ、生徒会朝礼、各クラスのいじめ撲滅スローガンづくり、昼の校内放送による呼びかけなど、様々な取組を行った。

- ・生徒指導・教育相談の状況については、生徒指導部会、教育相談部会を中心に、さわやか相談室、関係機関とも連携を図りながら、組織的に、生徒一人ひとりに応じた指導・支援を行うように努めた。また、「心と生活のアンケート」結果に基づいた面談や生徒の話をじっくり聞く機会を設け、一人ひとりに寄り添った対応を心がけた。
- ・学校評価の生徒アンケートでは、「あなたは、不安や悩みを誰かに相談できていますか。」の項目で「そう思う」と回答した生徒は、49.5%（昨年度48.6%）となったが、「どちらかというところをそう思う」を含めた肯定的な回答は、78.8%（昨年度82.0%）と昨年度より下回った。教育相談のさらなる充実が課題である。

目標（４）について

- ・学校保健委員会や生徒会専門委員会の保健委員会の呼びかけ、歯磨きタイムの実施、保健室だよりの発行、薬物乱用防止教室の実施等の取組を行い、健康教育の充実に努めることができたが、歯の健康状況が芳しくないという学校医の先生から御指導いただいた。次年度の課題である。
- ・新型コロナウイルス感染症対応では、さいたま市教育活動実施マニュアルに基づき、毎日の登校時の検温及び消毒、手洗い、密を避ける、黙食等基本的な感染対策の徹底を図った。また、感染症対策として、ジャージ登校も認めるなど、柔軟な対応を心がけた。保護者との連携において、学校だより、学校安心メール等で感染症対策等について繰り返し協力をお願いした。
- ・毎月の校内の安全点検を確実に実施し、校内の修繕が必要な箇所の優先順位をつけ計画的に修繕等を行うことができた。また、地域の方々やPTAと連携し、学校周辺の落ち葉掃き清掃を行い、通学路の安全に努めるとともに、防犯ブザー、懐中電灯の持参の推奨、PTAの「登下校メールサービス」の導入に協力し、生徒の安全確保に努めることができた。

目標（５）について

- ・教職員用端末を活用し、オンライン会議やデータ共有により、負担・時間軽減に努めた。また、人事評価シートを活用し、年度当初に教職員一人ひとりが業務改善計画を立てて取り組んだが、在校時間の縮減に至っていない。次年度の課題である。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

- ・1人1台タブレットパソコンを活用しながら、基礎的・基本的事項の定着を図るとともに、「アクティブ・ラーニング」型授業の流れ（プロセス）を再度確認し、授業を工夫・改善し、学力向上を図る。
- ・さいたま STEAMS 教育に係る学習内容を年間計画に位置付けて、授業実践するとともに、宇宙や科学技術に関連する取組を継続し、主体的に課題を解決する力の育成に努める。
- ・いじめ防止の取組について、生徒とともに考えて取り組んでいくとともに、生徒とのコミュニケーションを大切にして、いつでも相談できる雰囲気づくりを推進していく。
- ・健康教育については、引き続き感染症対策の徹底を図るとともに、家庭と連携しながら、歯の健康に対する意識を醸成し、しっかりと歯を磨く習慣を確立する。
- ・教職員の業務改善については、全体、個人で業務の見直しを図るとともに、各自が毎月の在校時間の状況を振り返り、業務の効率化等を検討し、負担軽減、在校時間の削減につなげていく。